川越東ダイナモ日本一!!!

小学生サッカー「スポーツオーソリティカップ2015」

フランス切符
いざ世界へ

小学生サッカーの「スポーツオーソリティカップ2015」全国大会（主催・スポーツオーソリティ）が1月16日、埼玉スタジアム2002であった。全国8地域の各大会を勝ち抜いた10チームが出場。決勝はダイナモ川越東が2－1で広島高陽フットボールクラブU12を下し、初優勝した。アディダススペシャルゲストとして大会を観戦した元日本代表DFの中田浩二さん（スポニチ評論家）は、未来のアスリートたちのプレーを「みんな上手だ！」と絶賛した。

優勝して喜ぶ川越東の選手たち㊧2点目を決めて喜ぶ川越東・本間くん（右から2人目）㊨決勝でぶつかった川越東（赤白）と広島高陽（紫）

ベンチからスタンドから応援途切れず
ピッチ内外一丸で頂点

広島高陽に2－1

11年目を迎えたスポーツオーソリティカップは、今年も全国大会で熱戦が繰り広げられた。決勝の舞台はさいたまスタジアム2002（埼スタ）。02年日韓ワールドカップで、世界トップレベルの選手たちが戦った伝説のピッチだ。

今大会では5チームずつが2つの予選リーグに分かれ、1位となった川越東と広島高陽が決勝に進出。巨大な観戦スタンド、目もまばゆい芝…。日本サッカーの聖地で、2チームの選手たちが激突した。

一進一退の攻防を打ち破ったのは川越東だった。前半17分、高橋快歩君（6年）が右足を鮮やかに振り抜くシュートで先制。その直後の19分には、本間秋平君（6年）がゴール右隅にシュートを決めて追加点を挙げた。後半は広島高陽が反撃して1点を返したが、あと1点が奪えず試合終了。優勝した川越東の選手たちは、全員が肩を組み合って喜びを分かちあった。

高橋君と本間君は自らのゴールを「みんながつないでくれたパスだから決めなくちゃと思いました」と声をそろえた。試合中、ベンチとスタンドからもチームメートの応援が止むことはなかった。[illegible]を思いやり、仲間のために頑張る。フォア・ザ・チームの精神が川越東の強さの源だった。

元日本代表DFの中田浩二さんは決勝を観戦し、驚きの声を上げた。

「どの選手も本当にレベルが高くてビックリした！川越東も広島高陽も、ボールを止める、蹴るの基本的な技術がしっかりしている。何よりゴールに向かうというみんなの意識の高さが凄いね！」

中田さんは現役時代、鹿島アントラーズやスイスのバーゼルなどで活躍し、日本のサッカーの中心を担っていた。

「勝ったら喜びを、負けたら悔しさを忘れなければいい。この全国大会に出場した選手たちから、Jリーグや海外に羽ばたく子が出てくるといいな」

大きな可能性を感じさせる選手たちばかりを見られて、中田さんもうれしそうだった。

優勝した川越東を表彰する中田浩二さん

優勝した川越東は5月に、日本代表として世界大会「フォルクスワーゲンジュニアワールドマスターズ」（フランス）に出場する。高杉学監督は「世界という目標があったから優勝できました。フランスでは日本代表として恥ずかしくない戦いをしてきます」と意気込みを語った。練習や試合を通じて、イレブンは一日、また一日と成長する。日本から世界へ。スポーツオーソリティカップで戦った選手たちは大きな目標を見据えている。

㊤誰が一番速いかな？シュートスピードの計測コーナー㊨㊦盛況だったスタジアムツアー

シュート速度計測＆ロッカー見学も実施

○…スポーツオーソリティカップは「試合に出なくてもみんなが楽しめる場所」を目指して運営されている。今大会は試合会場の一角に、シュートスピードの計測コーナーが設置されていた。選手たちが友だち同士でボールを思いっきり蹴り、ボールの速さを比べて楽しんでいた。また、普段は見られない埼スタのいろいろな場所を見学できるスタジアムツアーも実施。ホームチームである浦和レッドダイヤモンズのロッカールームやインタビュースペースを回り、参加した約80人の親子が盛り上がっていた。